




# BベEテH通E信

## 2024年9月号（第254号）

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 TEL089-925-5000  
ホームページ <https://www.bethel.or.jp/>



### 家族の一員として

3階西病棟主任の石川と申します。皆さんは、ペットを飼った経験はありますか？私は、13歳になった黒い柴犬を飼っています。雑種なので、普通の柴犬より少し大きめで、体重が20kg位あります。疲れているときもその存在に癒されています。スタッフからも犬や猫などを飼っている話を聞きますので、ペットを飼っている家庭も増えているのかなと感じていました。

しかし、一般社団法人ペットフード協会の調査によると家庭での犬の飼育率は減少傾向、猫の飼育率は横ばいで推移しているそうです。ペットを飼育することには、家族に表情の変化、会話量の変化等の良い影響があると言われていています。また、犬の場合、飼育者本人の自覚として「運動量が増えた」という評価も高いようです。一方で高齢のペット飼育支援の一助となる各種サービスは認知・利用経験ともに低く、飼育率の低下の一因になっているそうです。私が飼っている犬も、7月末から自分で立ち上がれなくなり、トイレや食事にも介助が必要になりました。犬の介護について調べると、犬や猫にも、車椅子やバギー、ハーネスなど歩けなくなっても歩行を介助する道具や、オムツ、食べやすい食事や食器、褥瘡予防マット、サプリメントなど様々な介護用品があることを知りました。思っていた以上にたくさんの物があって、たしかに介護が必要なペットも増えているのだろうと感じました。

入院中の患者さまからも、ペットのお話を聞くことがあります。写真を持って来られる方もおられ、患者さまにとってペットも大切な存在であることが感じられます。ベテル病院のホスピス緩和ケア病棟では、ご希望があれば、ペットと面会をする事が出来ます。ペットと面会すると、皆さんとても良い表情になり、たくさんのペットとの思い出を聞かせてくださったりします。ペットも大切な家族の一員として、面会をしていただくことができるのは当院の良い所の一つではないかと考えます。

これからも、患者さまやご家族がどのような事を大切にされているかお話を聞きながら、その人らしく過ごすために何が必要か考えながら看護を行っていきたいと思います。

(3階西病棟 看護主任 石川 明美)



# 世代とケアのあり方

前号では、『ベビーブーマー世代』『X世代』『Y世代』『Z世代』の概略を紹介しました。

現在、私はホスピスケアを中心に診療を行っており、患者さまの多くは高齢者です。しかし、もともとの専門は耳鼻咽喉科であり、この分野では老若男女を問わず、さまざまな年齢層の患者さまを診察してきました。そのため、世代による医療に対する考え方の違いを日々感じていました。

例えば、あるケースで、私は患者さまに以下のように説明しました。

**医師**：「病名は急性扁桃炎です。発熱、腫れ、痛みがひどく、食事ができていませんので、入院をお勧めします。」

- **ベビーブーマー世代**：「わかりました。先生の良いようにしてください。」
- **X世代**：「原因は何ですか？まさか癌ではないですよね？入院ですか？できれば避けたいです。」
- **Y世代**：「原因は何ですか？治療は抗生剤ですか？治療期間はどれくらいかかりますか？ネットで調べたところ、入院せずに治るケースもあると見ましたが、本当に入院が必要ですか？」
- **Z世代**：「え、入院ですか…（スマホで急性扁桃炎についての情報を集める）。…食事ができなくてしんどいので、入院します…。」

極端な書き方ですが、このように、世代による医療者への信頼度や情報収集の姿勢には大きな違いがあります。**高齢者世代**（ベビーブーマー世代）は医師の言葉を絶対的に信頼する傾向が強いのに対し、**若い世代**（X世代、Y世代、Z世代）は、医療に対してより主体的であり、特にY世代やZ世代では、ネットやSNSなどで情報を収集し、自分なりに合理的な判断をしようとする傾向が強いです。

これらの傾向は、それぞれの世代が育った時代背景に大きく影響されていると考えられます。ベビーブーマー世代が若い頃、医療技術はまだ発展途上であり、病気に対する恐怖や無力感が強かったことが想像されます。そのため、今の進歩した医療技術に深く信頼を寄せているのかもしれませんが。X世代は、医療技術の急速な発展を目の当たりにしてきたため、技術への期待がある一方で、過剰診療や薬の多用に対して警戒心を持つこともあります。Y世代は、テクノロジーを当然のものとして捉え、情報収集の力を重視しますが、テクノロジーへの過度な依存に対しては懐疑的な姿勢も持っています。Z世代は、医療技術の進歩を当然とし、情報収集の手段も豊富ですが、目上の人からの指示に対しては比較的従順な一面もあります。

私がホスピスケアを学び始めてから、もうすぐ一年が経とうとしています。この間に、患者さまの世代がゆっくりではありますが、確実に若い世代へと移行していることを実感しています。患者さまの病歴を拝見したり、お話を伺ったりする中で、世代による考え方の違いが明確に感じられるようになりました。今後、世代の変化に伴い、求められるホスピスケアも進化していく必要があります。そのため、私は日々、その変化に対応したケアの在り方を模索し患者さま一人ひとりのニーズに寄り添ったケアを提供できるよう努めていく必要があると考えています。



（ホスピス/えんげ外来医師 阿部 康範）

# COPD(慢性閉塞性肺疾患)②

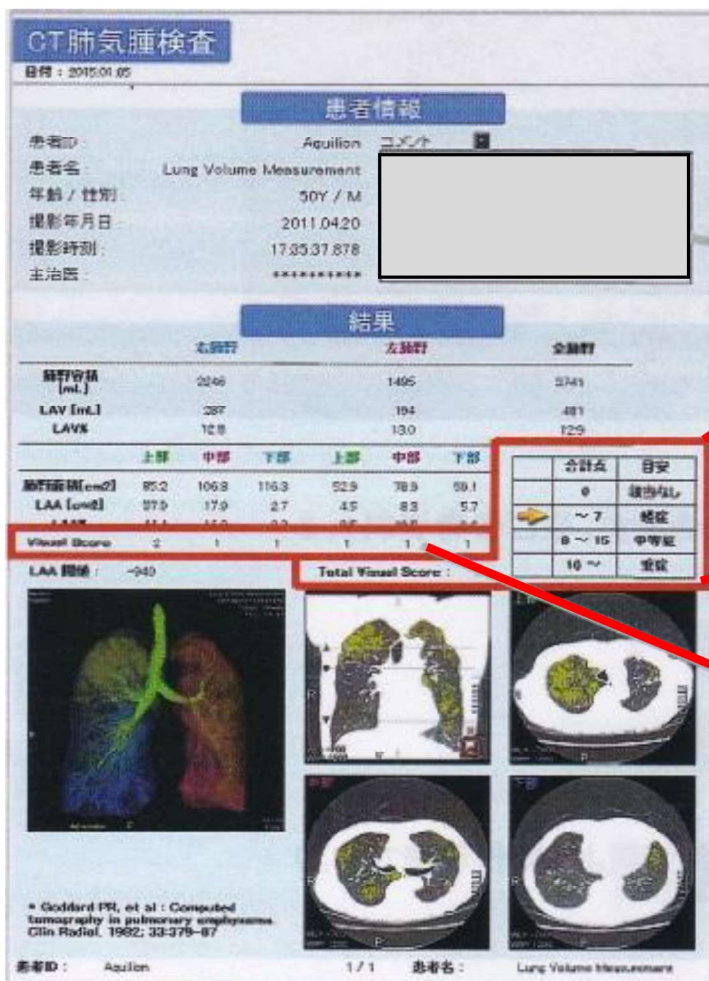
今回は、COPDの検査についてお話しします。  
 当院では、新たに導入した80列CT装置にLAA解析という特殊な解析ソフトを搭載しております。  
 LAA解析とは、COPDの診断基準の1つである肺気腫の画像所見



LAA(Low Attenuation Area : X線低吸収領域)

を解析することです。

胸部CT画像の上・中・下肺野の計3部位について、LAAの割合を5段階に分類し、点数付けをします。さらにその合計点数により目安が決定され、下図のようなレポートが完成します。



下記の合計点数により分類

各肺野面積に占めるLAAの割合

- 0点: 肺気腫病変なし
- 1点: 肺野の25%未満
- 2点: 肺野の25%以上 50%未満
- 3点: 肺野の50%以上 75%未満
- 4点: 肺野の75%以上

肺気腫の状態をCT画像(黄色の部分)と点数で見ることができ(視覚的評価)非常に分かりやすいです。  
 気になる方はぜひ検査してみてくださいはいかがでしょうか？

参考資料: COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン

(放射線課 高橋 祐介)

## 外来診療日のお知らせ

◎豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）

9月4日（水）、9月18日（水）

◎8月の休診（8月23日現在）

8月30日（金）大西 哲史 医師（内科）

8月30日（金）阿部 康範 医師（えんげ外来）

※9月の休診はありません



松山ベテル病院では、接遇目標・医療安全推進目標をかかげています

### 9月 接遇目標

二〇二四年 九月の接遇目標

残暑はまだまだ続きますが  
身だしなみには気を付けましょう

聖徳委員会  
接遇委員会

接遇委員会

### 9・10月 医療安全推進目標

多職種と築く（気付く）安全

安心の輪（和）!



医療安全委員会

## 掲示物紹介

## 新人紹介



4階病棟夏祭り  
ヨーヨー釣り楽しそうですね♪

ひらおか ひろみ  
平岡 裕美

配属部署：2階病棟西フロア

職種：介護職

抱負：経験が乏しく至らない部分も多いかと思いますが、少しでも早く仕事を覚え貢献できるよう精一杯努力いたします。



ベテル旬会  
今日もまた  
ディールームにて  
心りハビリだ!!

（中川 美佐子）

- ・投句箱を外来・各病棟に設置しています。皆様のご投句をお待ちしております。
- ・『ベテル通信』について、ご意見やご要望を「ご意見箱」へお寄せください。
- ・掲載中の写真についてはご本人、ご家族の許可を得ています。

発行日 2024年8月23日